

NATSUIGAWA
RIVER BASIN
ACTION PLAN 21



夏井川 アクション プラン 21

～笑顔がはじける夏井川をめざして～

夏井川流域行動計画

平成20年3月
夏井川流域の会

夏井川アクションプラン21

～笑顔がはじける夏井川をめざして～

夏井川流域行動計画

平成20年3月
夏井川流域の会

目 次

～はじめに～

1 夏井川流域行動計画とは？	p1
2 夏井川流域の会とは？	p1
3 私たちにとっての夏井川流域とは？	p2
4 夏井川流域の課題	p4
5 将来像	p6
6 活動の進め方	p8
7 活動内容	p11

～おわりに～

* 参考資料 *	
活動の軌跡	1
活動の成果	2
数字で見る夏井川流域の現状	5
夏井川流域の白地図	9
プランづくりの経緯	11

はじめに

私たちが夏井川を見て思うことは、川で子どもたちの姿を見なくなったことです。かつては、水泳や魚とりに興じる子どもたちの姿があり、自然を学び、自然に育てられた子どもたちが大人となって地域を支えていったものでした。

社会状況や生活様式の変化が大きな要因ではありますが、水が汚れ、ゴミが散乱し、魚の姿が見えないなど、川そのものに魅力が無くなり人が遠ざかることで、子ども達が川への興味・関心を失い、川とのつながりを感じられなくなったことも一つの要因ではないかと考えます。

このままの夏井川で良いのでしょうか？

流域内では、たくさんの方が色々な活動をして、夏井川を良くしようと頑張っています。

想いは一緒です！

同じ想いをもって、お互いを励ましあい、みんなで協力してできることから始めようとこのプランにまとめました。

みなさんも一緒に活動しませんか？





1. 夏井川流域行動計画とは？

夏井川流域行動計画とは、夏井川流域において次世代へ引き継ぎたい水環境を目指し、流域内の団体・個人が事業者や教育・研究機関、行政と連携して取り組む決意を示したものです。

本計画は、夏井川流域の会（2.を参照）が流域の中の様々な団体・機関に協力を呼びかけながら、「森・川・海の笑顔が見える流域」の実現を目指して実行していく活動指針です。

本計画の策定にあたっては広く意見を求め、特に川ばた会議等で出された意見を中心に作成しています。今後も多くの方の意見に耳を傾けて計画に反映させる考えです。

2. 夏井川流域の会とは？

夏井川流域の会は、これまでいろいろな人達が個々に活動してきたものを大切にしながら、上・中・下流が協力することで夏井川流域のより良い水循環を実現しようと、平成19年9月8日に設立しました。

夏井川の水環境を守り次世代に引き継ぐために活動する団体・個人が集まり、行政機関や教育機関等と協力して、“みんなで見て、みんなで学び、みんなで考え、みんなで実践していく”活動をします。「森・川・海の笑顔が見える流域」の実現を目指して、それぞれの役割を活かして、協力と連携をした活動をします。

3. 私たちにとっての夏井川流域とは？



夏井川は、阿武隈高地の山々を源に、田村市（旧滝根町）や小野町の平坦部を流れた後、夏井川溪谷を流れ下り、いわき市から太平洋に注ぐ、河川延長 67.1km の県内でも有数の河川です。

その流域は 748.6km² と広く、その中には約 15 万人と多くの人たちが生活しています。

先人が小川江筋や愛谷堰等を築き、上手に水を利用して地域が発展してきました。また、昔からいわきと県中を結ぶ交通路として利用されており、下流では米等の運搬に舟運が利用され、産業や交流を支えてきました。

いわき市の小川や田村市の広瀬等、川にちなんだ地名も多く残されており、さらには、詩人草野心平の作品や、いわき市立平第二小学校等の多くの校歌に歌われています。昔から私たちは夏井川と深く関わって暮らしてきました。

森・川・海のつながり

流域の約80%は森林に覆われ、その森林に降った雨や雪が地面にしみこみ地下水となり、また森林によりきれいな水となって夏井川に集まり、太平洋へ注いでいます。秋になれば河口からサケが上ってくるなど、海とのつながりがわかります。

自然と生活のつながり

夏井川の水は、その流れの中で、私たちの飲み水やかんがいに利用され、水力発電所で電気をつくっています。また私たちが生活で利用した水は、排水施設を通過して、また夏井川に戻ります。

人と人のつながり

上流の田村市滝根町や小野町で利用された水は、夏井川に戻って、また中下流域のいわき市で利用されています。この夏井川の水を豊かで安定した流れにしたいという想いで植林活動をしている人々がいたり、流域全体の人が集まるイベントや交流会も行われています。

夏井川流域の自然と私たちの生活は、この3つのように密接につながっており、それがいかに大切であるかがわかります。このつながりを太く・強くすることで、ふるさとの川・夏井川をより良い姿で次世代に引き継げると私たちは考え、活動に取り組んでいます。

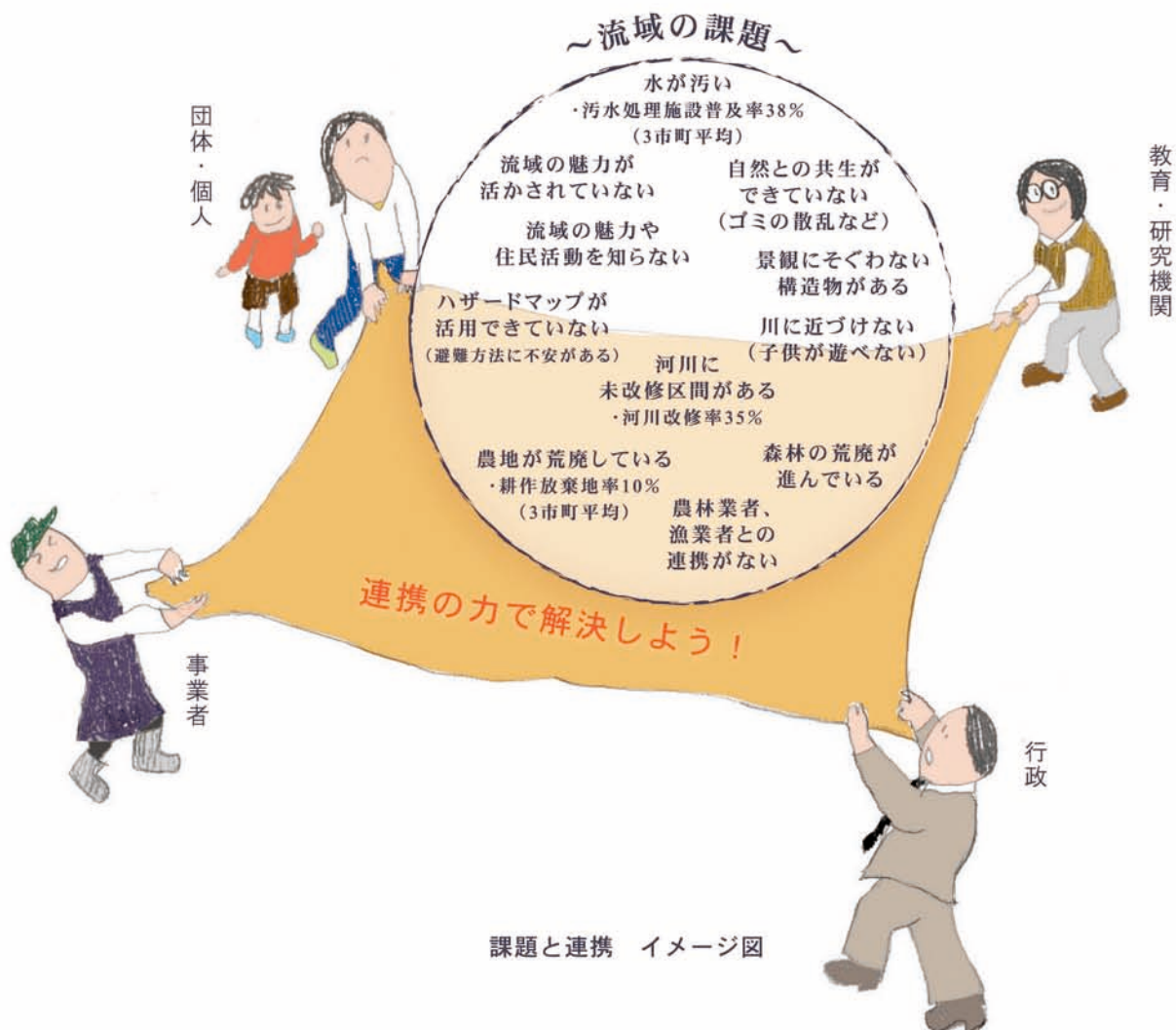
4. 夏井川流域の課題

現在の夏井川流域は、以前と違い様々な課題を抱えるようになりました。

水の汚染やゴミの散乱、生態系の変化といった課題は、流域を構成する森林や農地の維持も関係してくるため、多面的に課題の解決を図る必要があります。また、地域の安全のための治水も、同様に様々な課題と関係します。

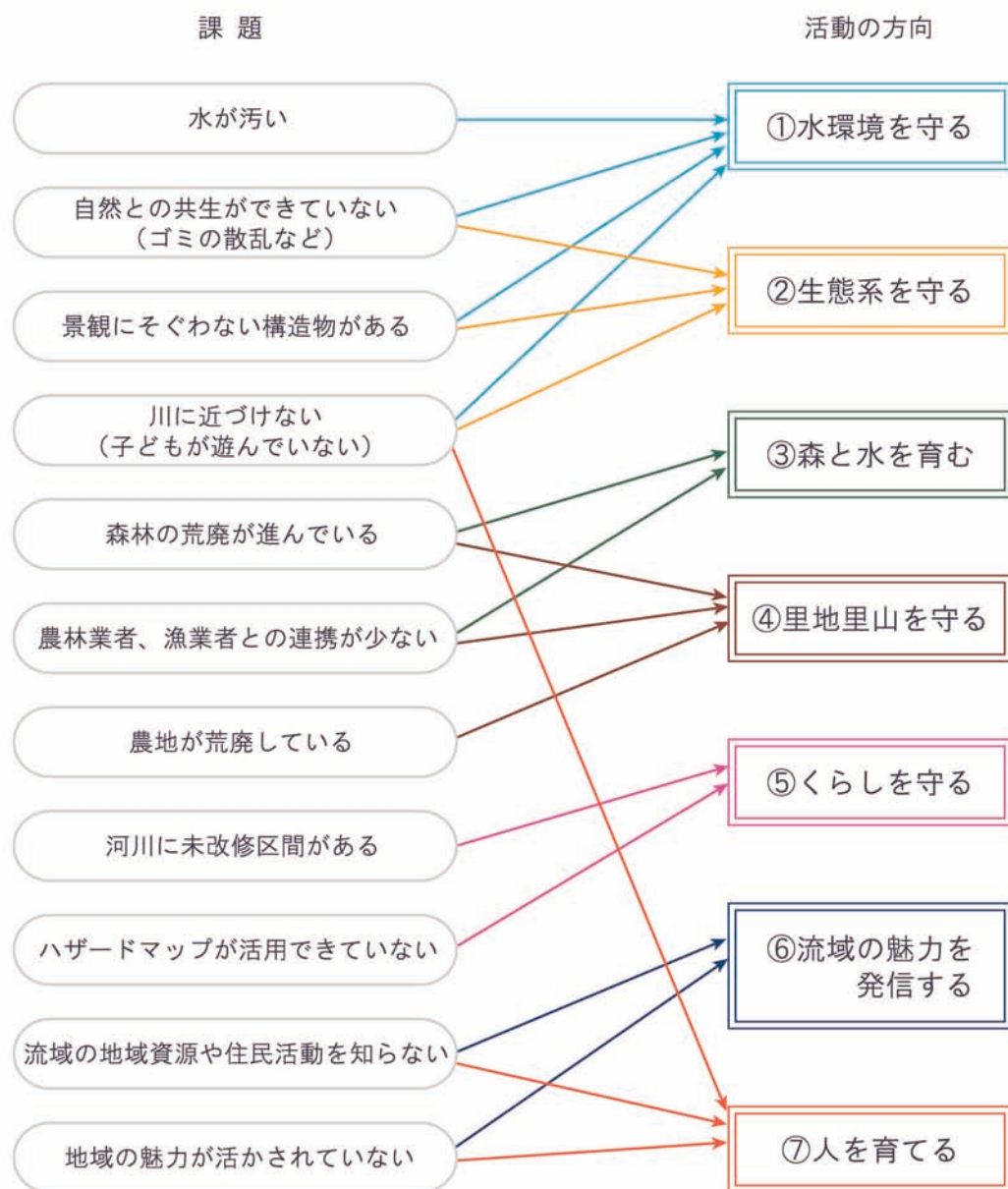
今までは団体・個人、事業者、教育・研究機関、行政が個々に取組みを行ってきましたが、今後はそれぞれが知恵を出し合い、協力しながら取り組むことが必要となっています。

例えば、「水が汚い」という課題は、汚水処理施設の整備も必要ですが、各家庭で油などを排水口に流さないことや、減農薬、環境教育など、みんなが水を汚さない意識を持ちながら協力・連携して課題を解決していくことが大切です。



課題と連携 イメージ図

私たちが色々な人たちの意見を聞いたり話し合ったりする中で、夏井川流域の様々な課題と、そこから見えてくる7つの活動の方向がわかってきました。



流域の課題から「活動の方向」へのつながり イメージ図

5. 将来像

私たちは、7つの活動の方向を進めることで、様々な流域の課題を解決し、魅力ある「森・川・海」の笑顔が見える」夏井川流域にしていします。



夏井川流域には、田んぼや畑などがたくさんあり、人と自然が調和した里地里山をつくっています。しかし、身近だった自然も生活様式の変化などにより人々の心から遠ざかり、荒れてきました。みんなで協力して里地里山を守り、人と自然が調和した夏井川にしましょう。



昔はたくさん子どもたちが夏井川で遊んでいましたが、今では川が汚れ、ゴミが散乱し、そんな姿が見られなくなりました。みんなで協力してきれいな川を取り戻し、子どもたちが楽しく笑顔で遊べる夏井川にしましょう。



7つの活動の方向



④里地里山を守る

①水環境を守る

⑦人を育てる

夏井川流域には、自然、歴史、文化、人などの魅力がたくさんあります。しかし、これらの魅力が子どもたちへ伝わっていません。みんなで協力して、子どもたちが水を知り、水に親しみ、流域の魅力を誇りにできるような夏井川にしましょう。

夏井川流域は森林に覆われ、きれいな水が育まれています。しかし、木材価格の低迷や過疎・高齢化により森林が荒れてきました。森が荒れると水に含まれる森の栄養分が減り、海の生き物にまで影響します。みんなで協力して、**森林を守り育て豊かな水が流れる夏井川**にしましょう。



③ 森と水を育む

夏井川流域では、最古の斜め堰である小川江筋取水堰や、洪水に備えた水屋などの先人の知恵や技術、様々な歴史、文化がともに育まれてきました。また、様々な活動に取り組んでいる人たちがいます。しかし、これらの魅力ある地域資源や住民活動が知られていません。みんなで夏井川の**魅力を発見し、魅力を生かし、活動の輪を広げ、人が集う夏井川**にしましょう。



⑥ 流域の魅力を発信する

夏井川には、サケがのぼり、コアジサシが飛来します。しかし、コンクリート構造物や水の汚れ、ブラックバスなどの外来種により、生き物にとって棲みにくい川となりました。みんなで協力して、**たくさんの生き物が棲む夏井川**にしましょう。



② 生態系を守る

⑤ 暮らしを守る

夏井川流域の約60%の人々は、洪水時に浸水の危険性がある低地に住んでいます。しかし、小玉ダムや河川整備によって洪水の被害が減り、夏井川の怖い一面を忘れつつあります。水の怖さを忘れず、いざという時に備え、みんなで協力して、**安全で安心して生活できる夏井川**にしましょう。



森・川・海笑顔が見える流域を

